

【学校教育目標】

やさしく、賢く、逞しく ～未来を切り拓く生徒の育成～

【教育ビジョン】

- 1 めざす学校像 校訓 : 全校一心 ～ 明るく、強く、美しく ～
 - ① いのちと人権を守る、安全で安心な学校
 - ② 生きる力（知・徳・体）を鍛え育てる学校
 - ③ 保護者や地域から信頼される学校
 - ④ 働きがいのある学校
- 2 めざす生徒像
優しい人、賢い人、逞しい人
- 3 めざす教師像 ～プロとしての自覚と誇りを持つ教職員～
○授業で勝負する教師 ○子どもと共に歩む教師 ○子どもの模範となる教師 ○チームで取り組む教師
- 4 令和6年度の教職員の重点目標
「組織で協議し、組織として徹底する ～各種委員会、担当者会の活性化～」

【具体的取組】

○ いのちと人権を守る教育 ～人権教育を土台とした教育活動～

※「生徒一人ひとりを、人として尊重し、自立に向けての土台を鍛え育てる教育」を全ての教育活動の柱とする

○「人間的なふれあい」と確かな生徒理解に基づく生徒指導の推進

- ・学校の教育活動の中で生徒自身が認められている安心感を感じられるよう「発達支持的生徒指導」の視点に立った生徒指導に努める。生徒の言動の背景を探り、傾聴の姿勢で生徒理解に基づいた指導を行う。
- ・保護者との連携を密にした生徒指導の推進（「良い報告は電話で、悪い報告は顔を見て」が基本）
- ※先手先手の保護者連絡（スピードは誠意。「生徒が保護者に伝える前に連絡を」が基本）

○いじめを許さない、一人ひとりを大切に取る取組

- ・いじめ見落とし・見逃し、ゼロ ・八千代中学校いじめ防止基本方針に基づく、迅速かつ組織的な対応（未然防止・早期発見・早期対応） ・児童生徒カルテシステムによるきめ細やかなサポート（必ず指導の記録を残し、確実に情報共有・引き継ぎを行う。一人で抱え込まない。） ・いじめ対策委員会（定例）による対応の確認
- ・多可町いじめ防止対策検証委員会における評価・検証による取組の改善

○一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育の充実

- ・校内支援委員会を中心とした組織的支援（支援の必要な生徒の対応を協議、全職員で共有し、共通理解のもと指導にあたる。） ・保護者及び関係機関との連携の充実 ・サポートファイルや個別指導計画の有効活用（合理的配慮の提供） ・障害に応じた自立活動の充実（特別支援学級・通級指導）

○不登校支援の充実

- ・多可町不登校対策アクションプランに基づき、不登校支援委員会を中心とした組織的支援（支援の必要な生徒の対応を協議、全職員で共有し、共通理解のもと指導にあたる。） ・不登校担当教員、スクール・ラブによるサポート体制の充実

○危機管理体制の確立と安全の確保

- ・危機管理体制の確立（①迅速かつ組織的な事故等への対応（「初期対応が全て」の意識を持って対応）、②危機管理の「さ・し・す・せ・そ」を常に意識、③「報・連・相」の徹底、④関係機関との連携） ・毎月の安全点検による事故の未然防止 ・防災、防犯訓練を通じた安全確保と安全意識（自助意識）の高揚 ・「多可町通学路安全プログラム」に基づく通学路の実態把握、安全対策

○専門機関・関係機関と連携した生徒支援

- ・「多可町子育て・学校園サポートチーム」との連携 ・スクールロイヤー他各専門機関との連携

1 豊かな心の育成 ～一人ひとりの居場所のある学級づくり～

○温かい人間関係づくりの推進

- ・一人ひとりの居場所があり、安心できる学級づくり ・学校行事、生徒会活動を通じた、絆づくり、社会性・自主性・自立性・の育成 ・「生活ノート」を通じた信頼関係づくりと援助希求のキャッチ

○いのちを大切に、自分とともに周りの人を大切にしようとする意識（人権意識）の向上

- ・「心の健康教育」による系統的なSSTの組織的推進 ・いのちの授業の実施 ・人権教育コア・カリキュラムの計画的実施と授業改善

○道徳教育の充実

- ・特別の教科「道徳」の指導方法・評価方法に係る研究の充実 ・全教職員によるローテーション授業の実施
- ・情報モラル教育の充実（生徒会・PTAとの連携、ネットモラル教材の活用）

○キャリア教育の推進

- ・社会的自立に必要な態度や能力を育てる系統的なキャリア教育の推進（特別活動、総合的な学習の時間等）

○ふるさとを誇りに思う心の育成 ～ふるさと教育の充実～

- ・「多可町ふるさと教育ガイドライン」を活用した系統的なふるさと教育の推進 ・「多可町ふるさと検定」への挑戦 ・杉原紙年賀状コンクール等への積極的応募 ・地元高齢者福祉施設へのボランティア活動の推進

2 確かな学力の育成 ～子どもたちに「確かな学力」を身に付けさせる授業づくり～

○第3期多可町学力向上3か年計画に基づく授業改善と教職員の資質向上

- ・「めあて」と「ふりかえり」を重視した授業の展開 ・言語活動を活かした授業づくり（「書くこと」の日常化） ・タブレットの活用による授業展開の効率化と生徒の言語活動の保障

○ユニバーサルデザインを意識した授業改善（めあて、ふりかえり、授業の流れの提示など全教科で推進）

○基礎基本の定着

- ・学習相談日、放課後、長期休業尾灯を活用した補充学習の充実 ・学習タイムの充実 ・読解力の向上 ・スタディサプリを活用した個別最適な学習の推進

○読書活動の充実

- ・生徒の不読率改善に向けた取組 ・図書室や学級文庫等読書環境の充実 ・学校司書による読書環境の整備

○家庭学習の習慣化

- ・「学習の手引き」の改訂（学習方法・評価方法の明確化） ・「生活ノート」を活用した家庭学習の習慣化

3 健やかな体の育成 ～最後までやり抜く丈夫な体としなやかな心の育成～

○基本的な生活態度・生活習慣の確立

- ・生徒会を中心とした生徒主体の日常生活のふりかえりと改善 ・基本的生活習慣の確立（「み・そ・あ・じ」～身だしなみ・掃除・挨拶・時間～） ・「あったかあいさつ運動」との連携 ・家庭と連携した生活習慣（タブレット、スマホ、ゲーム等との向き合い方、使用時間）の見直し推進

○体力の向上、食育・健康教育の推進

- ・体育の授業や体育的行事等を通じた体力向上と最後までやり抜く心の育成 ・体力テストによる課題への対応 ・日常的な保健指導の推進 ・「食育全体計画」に基づく食育指導 ・食物アレルギーに対する共通理解

4 保護者や地域から信頼される学校づくり

○保護者・地域から信頼される教師集団の形成

- ・報告・連絡・相談の徹底 ・迅速かつ適切な組織的対応 ・保護者や地域との密な連携

○学校教育活動の積極的な公開、情報提供

- ・オープンスクールの充実 ・学校だより、学校ホームページによる積極的な情報発信

○学校評価を活用した学校運営の改善

- ・学校評議員制度の活用 ・PDCAサイクルによる教育活動の改善 ・学校評価の公表

○小中連携・中中連携の促進

- ・八千代小学校との連携促進による小中間の円滑な接続 ・統合を見据えた行事等における中中連携の開始

5 働きがいのある学校づくり

○勤務時間の適正化

- ・「統合型校務支援システム」や「S-Web i c」の活用 ・定時退勤日の完全実施 ・タイムマネジメントを意識した職務遂行 ・教育課程の是正と学校行事の見直し ・ICTを活用した校務の効率化の推進

○明るく風通しの良い職場づくりの推進

- ・あらゆるハラスメントのない職場環境づくり ・心身の健康保持に配慮した職場づくり

○ワーク・ライフ・バランスの推進

- ・年次休暇の計画的な取得促進

○中学生のスポーツ・文化活動の地域展開に向けた関係機関・地域団体等との連携

- ・令和8年度総体までの段階的な学校部活動廃止に向け、町と連携した体制整備の推進 ・子どもたちや保護者が安心して改革に臨めるよう広報活動等への協力 ・教員が地域指導者として関わる場合の条件の整理